東部療育通信-2025年11月号-
入所と地域の障害児者の生活を支援するメールマガジン
発行東京都立東部療育センターhttp://www.tobu-ryoiku.jp/

「その人らしい生活が続けられるような支援を」

日頃より東部療育センターのメールマガジンをお読みいただき、誠にありがとうございます。今回はメールマガジンの場をお借りして、生活支援員についてご紹介いたします。

生活支援員とはどんな仕事なのか、何をしているのか、その役割の一部を知っていただけたらと思います。

当センターでは各部署で様々な職種の職員が業務に関わっています。その中に生活支援員（以下「支援員」）もいます。普段、リハビリテーションや外来などをご利用の皆さんと支援員が接する機会はほとんどありません。それではどこに配置されているかというと、通所および入所病棟で働いています。

支援員は介護福祉士、保育士、児童指導員のいずれかの資格をもち、主な役割は「利用者さまの健康管理とより生活が潤うための適切な支援、活動、ケアを提供する」ことです。具体的にいうと、入浴や食事、更衣、排泄などといった日常の生活介助をはじめ、レクリエーションや余暇活動の提供、行事などの企画・実施をしています。

そんな支援員の一日を、病棟・通所の時間の流れに合わせてご紹介いたします。

【午前】

○　朝食（病棟）

ベッドから車いすへの移動など、支援員は食事を召し上がる利用者さまの朝食の介助を行います。その日の天気やその時の話題などをお話して、明るい食卓で安全に楽しく食事ができるように支援します。

○　受け入れ準備（通所）

通所ではその日に通所してくる利用者さまの受け入れのためにベッドを整え、物品を配置します。お迎えに向かうバス添乗の準備をして、看護師および支援員を乗せて出発します。

○　入浴清潔介助（病棟）

職員が朝礼を終えた後は、入浴や清潔ケアのはじまりです。入浴は利用者さまの身体を清潔に保つこと、さっぱりとした爽快感や身体の力も抜けてリラックスできるように、支援員たちはケアをします。その際には、髭剃りや髪を整えるなど、身の回りのケアも行います。

○　受け入れ～通所での生活（通所）

お迎えに向かったバスは利用者さまを乗せて通所に戻ってきます。バス添乗した職員からの報告や連絡帳、到着後の体調確認が済むと、通所での時間がスタートします。それぞれの利用者さまに合わせたスケジュールが始まり、入浴介助や日中活動で支援員も利用者さまと関わります。

【午後】

○　昼食（病棟・通所）

午前の入浴が終わる頃には、ちょうど昼食の時間になります。昼食介助も支援員の役割の一つです。その日その日のメニューとともに利用者さまと楽しい時間を過ごせるように支援します。例えば、昼食を待つ間に「今日は何の日」などと担当の職員が利用者さまに話しかけ、温かな雰囲気づくりを行います。そして食後はリラックスするため、看護師と支援員でベッドサイドの利用者さまの姿勢を整えることなどをします。

○　日中活動（病棟）

入所病棟では午後に日中活動を実施します。さまざまな感覚刺激活動、運動や季節の創作などを実施しています。利用者さまが活動から何らかの刺激を得て、楽しいと感じられるように支援員も工夫しながら関わります。

○　帰宅準備～片付け（通所）

通所では昼食の介助を終えると、利用者さまの帰宅準備が始まります。持ち物の確認やその日あったことを連絡ノートに記入するなど、バス出発に合わせて支援員も動きます。

バス添乗をしない支援員はバスを送り出した後の片付けがあります。使用した物品を整理し、明日以降も快適に過ごせる環境を整えることは支援員たちの役割でもあります。

○　記録、計画作成（病棟・通所）

利用者さま一人一人への関わり方を情報共有するため、チームの一員として支援員も記録や報告などを行います。また、より多くの利用者さまが楽しめる日中活動や行事の計画作成をしています。

【夕方以降】

○　夕食介助（病棟）

センターでの食事をとても楽しみにしてくれている利用者さまへの食事介助は支援員にとっても大切な時間です。その日の出来事などの話題でコミュニケーションをとりながら介助します。

○　就寝準備（病棟）

食後は歯みがきを行い利用者さまは居室のベッドに戻り、掛け物や衣類を整え、就寝に向けた準備をします。利用者さまによってはテレビやラジオ、音楽を聴きながら過ごすので、そのお手伝いもします。夜勤で必要な物品の整理や補充、片付けなどをして支援員の1日の仕事が終わります。

以上のように、勤務時間によって違いはありますが、支援員は一日の中で利用者さまと様々な場面での関わりがあります。

支援員はその人らしい生活を当センターで送れるようにと、日常生活のケアから楽しみの時間の提供など幅広い役割があるといえます。もちろんそれを一人で担っているわけではありません。看護師をはじめとしたさまざまなスタッフやご家族と連携を取りながら、利用者さまの支援をすることが基本となります。

利用者さまがよりよい暮らしを送るためには、確かなケアの技術に加え、利用者さまの声や表情、身体の反応を読み取り気持ちを察する姿勢も必要となります。そういった支援員のケアの質の向上は利用者さまの生活の質向上につながり、支援員が利用者さまの日常を支える身近な存在となっていけるのではないでしょうか。

療育部生活支援科

今回のメールマガジンはいかがでしたでしょうか？
ご意見・ご要望等ございましたら、遠慮なくお寄せください。

┃I┃N┃D┃E┃X┣━━

1：施設概要のページへ
→http://www.tobu-ryoiku.jp/outline/

2：ご利用案内のページへ
→http://www.tobu-ryoiku.jp/guide/

3：施設開放サービス
→http://www.tobu-ryoiku.jp/service/opening_service.html

4：療育部
→http://www.tobu-ryoiku.jp/guide/department/nursing.php

┃施設概要

●東京都立東部療育センターは、重症心身障害児者の医療と療育を総合的に行う施設です。
●少子化が進行する中にあっても、心身障害児者は減少しておらず、また、障害の程度は重度・重症化しています。更には、家族が高齢となったため家族介護が困難で施設入所を希望している方も増えています。
●一方で、できる限り住みなれた地域で在宅の療育を望んでいる障害者や家族の方達は多く、その支援の充実を図ることが一層必要となっています。このような状況に対応するため、重症心身障害児者施設が整備されていなかった区東部地区

に設置することにしました。
→http://www.tobu-ryoiku.jp/outline/

◆このメールはmsw_trc@mtrc.jp のアドレスより配信しております。
◆送信アドレスは配信専用です。お問合せやお手続きは下記よりお願いします。

東部療育通信
発行：東京都立東部療育センターhttp://www.tobu-ryoiku.jp/
個人情報保護方針：http://www.tobu-ryoiku.jp/privacypolicy.html
問合せ先：https://www.tobu-ryoiku.jp/inquiry.html
〒136-0075 東京都江東区新砂3-3-25
TEL 03-5632-8070 / FAX 03-5632-8071
E-mail msw_trc@mtrc.jp
●配信がご不要の方は、下記URL にアクセスして下さい
https://www5.webcas.net/gs/p/delete-user

Copyright (C) TOBU RYOIKU CENTER. All Rights Reserved.